

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

②施設・事業所情報

名称：土と愛子供の家保育所第2	種別：認可保育所
代表者氏名：保足 昌之	定員（利用人数）： 60名
所在地：〒241-0001 横浜市旭区上白根町1306-28	
TEL：045-958-0315	
ホームページ： http://tutitoai.com	

【施設・事業所の概要】

開設年月日 2003年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 土と愛		
職員数	常勤職員： 14名	非常勤職員： 7名
専門職員	栄養士 1名	
	児童心理士 1名	
施設・設備 の概要	(居室数) 保育室3室、厨房1室、事務室1室、予備室1室、職員休憩室1室、ホール	(設備等) ●園舎は2階建てで、1階に保育室等、2階に職員休憩室 ●乳児室と幼児室の間にホール ●園庭は2つに分かれており、滑り台や東屋を設置

③理念・基本方針

保育理念

- ・障害の有無や人種、宗教など差別なく受け入れ、社会的偏見・差別をなくす努力をする
- ・児童福祉法に基づき、入所する子どもの最善の利益を考慮し、また、家庭支援という視点より地域、保護者と共に子どもの福祉を積極的に尊重する

保育方針

- ・人権を尊重し、家庭環境、発達過程に考慮して、乳幼児期にふさわしい生活の場を豊かに作る保育を行う
- ・一人一人の子どもが現在をもっともよく生き、豊かな未来を作り出す力の基礎を培う
- ・保育所における環境を通じて、養護及び教育を一体的に行い、保護者に対する支援、保育に関する指導及び支援を行う

保育目標

- ・自主的・意欲的に生活し、自分を表出できる子どもになろうとする
- ・協力し助け合うことを喜びにできる子どもになろうとする

④施設・事業所の特徴的な取組

- 食育：味噌や干物、干し柿などを子どもと一緒に作ります。また、年長児がおこめときなど当番活動もします。日々自分たちの前に出てくる食事、食材はどのように作られているかを体験することで、ものづくりの大変さと喜び、生産者への感謝につながっていくと感じています。
- 保育：年長児は1年を通して和太鼓を行っています。クラス担当と一緒にやって園児に伝えることで、自分とクラスの仲間を見つめる機会を持つことを目的に行っています。4歳児までのクラスはなるべく外で自由に遊び、その中で好きなことを見つけ、一緒に遊んだり、けんかをする中で、人としての厚みをつけてもらいたいと考えています。

●異年齢：園舎の構造上、1・2歳児、3・4・5歳児はそれぞれ同じ保育室を用いていて縦割りの要素があり、クラスを超えて関係を深めやすい環境と考えています。縦割りの関係は子どもだけでなく、職員にも共通していて、ほかのクラスの子どもの目に入るので、クラス関係なく子どもの話ができる環境にあると思っています。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2019年4月18日（契約日）～2020年3月25日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（平成26年度）

⑥総評

◆特に評価の高い点

1、子どもが主体的に活動し、自分の思いを素直に表出できるように支援しています

保育士は、子どもの甘えたい気持ちややりたくてもできない気持ち、悔しい気持ちなどをそのまま受けとめて寄り添い、子どもが自分で気持ちを整理し、言葉で表現できるまで待っています。外遊びを重視し、園庭遊びや散歩を多く取り入れ、友達と一緒に身体を動かし、自然と触れ合う中で様々な学びを得られるようにしています。自由遊びでは、幼児は園庭遊びと室内遊びを自由に選ぶことができます。1・2歳児、3・4・5歳児は日常的に異年齢で過ごしていますが、5歳児の後半は個別に過ごし、太鼓などの活動に集中して取り組んでいます。

2、障がいなど様々な課題を持つ子どもを積極的に受け入れています

園は、座位を保つ椅子を用意するなど、障がいがある子どもが安心・安全に園生活を過ごせるように環境整備をしています。職員会議や乳児・幼児会議で子どもの状況について情報共有し、全職員で見守る体制を作っています。子どもが集団生活の中で多くの経験が積めるように一緒に活動していますが、難しい場合には個別に対応し、無理なく園生活を過ごせるようにしています。保育士は、障がいのあるなしに関係なく全ての子どもに分け隔てなく接していて、子どもたちも自然にクラスの仲間として受け入れています。

3、食育に力を入れています

園は、子どもが様々な食の体験を積むことで、食に親しみ、食に関わる様々な人への感謝の気持ちを学べるようにしています。5歳児は毎日、米とぎや給食の下準備の手伝いをし、水の冷たさや準備の大変さなどを体験しています。野菜の栽培や味噌作り、魚の干物作り、うどん踏みなど、年齢に応じた食育活動を行い、子どもたちが食への関心を高め、ものづくりの大変さを学べるようにしています。

◆改善を求められる点

1、マニュアルの整備を進めていくことが期待されます

感染症対応や危機管理などのマニュアルがありますが、業務手順や子どもへの関わり方など文書化されていないものもあります。定期的にマニュアルの修正をする仕組みもなく、マニュアルによっては保育の現状とそぐわないものもあります。さらなる整備が期待されます。

2、教育・研修への取り組みを体系的に実施していくことが期待されます

園として、経験年数、職位・職階別のキャリアパスに基づいて研修する仕組みがあります。職員は自分の目標管理シートに基づいて自分自身の研修を選択して受講することとしています。これらを基に園全体としての教育・研修計画をまとめているとは必ずしも言えません。体系的に、職員の教育、研修に取り組んで行くことが期待されます。

3、中長期計画の作成と事業計画を職員に周知していくことが期待されます

年度ごとの事業計画は作成していますが中長期計画は策定されていません。早急に中・長期的計画を策定し、園の運営方針を明確にしていくことが期待されます。また、改めて事業計画を職員に説明することもしていないので、職員に説明する機会を作り、職員も参画して進捗状況の評価、見直しをしていくことが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

前回の第三者評価を受審してから5年がたち、その期間で何が良くなり、何が課題かを客観的な立場から審査してもらい機会をつくることができました。前回は、当園が30人定員の分園から60名の独立園となり、2年目での受審だったので、まだまだ作り上げている途中で、課題があるのが当たり前、その課題をどうよくしていこうかという気持ちで行えました。

しかし、それから5年が経過した今回は、60人定員後7年の積み重ねたものを評価して頂くという緊張感があり、前回とはまた違った気持ちで取り組むことができました。

受審の工程（保護者アンケートや職員アンケート、自己評価、実地訪問）について、自分たちだけではできないことをやっていただいた中で、見えていたけれど改善に踏み込めていなかった部分、もっと自信を持っていい部分など成果と課題が浮き彫りになり、具体的に何から手を付けていけばよいか分かりました。

成果と課題がはっきりしたことで、土と愛子供の家保育所第2の色付け作業をどのようにして、どう発信し、どう応えられるか、そのやりとりを積み重ねていく中で、さらなる色付け作業をしていくことについての見通しが持てたと実感できました。

立地条件としては駅も近くはなく不便なところですが、駅近くにはない環境があると思っています。そして、保育については好評価をいただいたので、そこは自信を持ち、環境を生かし、人を生かし、深めながら、さらなる理念の達成に向けて邁進したいと思います。

最後に、アンケートにご協力くださったご家族の皆さま、そして、細かい点まで評価をしていただいた市民セクターよこはまのスタッフの方々、本当にありがとうございました。

社会福祉法人 土と愛
土と愛子供の家保育所第2
施設長 保足 昌之

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり